

〔東京音樂學校明治二十三年度學事年報〕

『東京音樂學校一覽 自明治廿三年至明治廿四年』によれば、五月二十六日、「更ニ練習室一棟文部大臣ヨリ交付セラル此面積四十坪ナリ」(十四頁)とある。そして、同第六章「敷地建物」の項には、「東京音樂學校ハ東京市下谷區上野公園地内舊西四軒寺跡ニ在リテ本年五月十二日新築落成セルモノニ係リ敷地面積七千八百七十七坪ニシテ建物ノ面積四百二十二坪六合六勺五才ナリ」と記載されている(五十四頁)。校舍はその後も二十五年、三十二年と徐々に拡張されていった。『東京音樂學校一覽 自明治三十二年至明治三十三年』には初めて「敷地建物圖」が折りこまれ、建物の面積は四百六十二坪九合壹勺五才と記されている。前二頁の図面はこのときのものである。

四 帝國議會開院

明治二十三年十一月二十九日、帝國議會が開院し、当日、東京音樂學校奏樂堂では祝賀演奏會が催された。そのおおよそは次の記事で知ることがができる。

帝國議會開院祝賀音樂會は當日午後二時より東京音樂學校の奏樂室に於て催されたり其順序は(1)式部職諸氏の歐洲管絃樂に伴れて同校教員及生徒諸氏の憲法發布之頌(2)同校女生徒の洋樂聯奏(3)伊澤校長の祝辭并音樂の沿革及必要と代議士諸氏に音樂を重用せられたしとの旨を述べられたり(4)同校教員生徒及來賓一同起立して國歌を合唱せらる(5)ヂットリヒ氏の洋琴伴奏に麴町番町坂本城東久松泰明寶田

櫻川櫻田の九小學校生徒百名許にて帝國議會開院の兒歌(6)ヂットリヒ氏の洋琴伴奏にて高等商業學校生徒四十余名の帝國議會開院の頌第二(7)同校バイオリン専修生のバイオリン合奏(8)式部職諸氏の歐洲管絃樂伴奏に同校生徒諸氏の帝國議會開院之頌第一なり之れにて伊澤校長は終式の旨を告げられ一同散會せしは午後四時頃なりき當日來會せしは八百余名にして頗る盛式なりし

〔音樂雜誌〕第四号、明治二十三年十二月

伊澤校長の祝辭は次のようなものであった。

帝國議會開院祝辭

本文ハ、明治二十三年十一月二十九日、即チ帝國議會開院ノ當日、東京音樂學校ノ講堂ニ於テ、社長伊澤修二君ノ演述セラレシヲ筆記セルモノナリ。

閣下、貴婦人、並ニ諸君。明治二十三年十一月二十九日ト云フ今日ハ、如何ナル日デアリマスカ。遠ク太古ノ世ニ在テ、我天祖天照大神ガ、天孫瓊々杵尊ニ「葦原千五百秋之瑞穗國、是吾子孫可レ王之地也。宜爾皇孫就而治焉。行矣。寶祚之隆當下與ニ天壤ニ無窮者矣。」ト宣リ賜ハセタル、大御言ノ御證ノ、最モ著ルク顯ハレタル日デアリマセウ。近ク明治維新ノ始メニ於テ、今上天皇陛下ガ、五事ヲ以テ天地神明ニ誓ヒ賜ヒ、以テ我國是ヲ定メサセ賜ヒ、明治十四年十月十二日ヲ以テ、我等臣民ニ、明治二十三年ヲ期シテ、立憲政治ヲ布キ給フノ勅諭ヲ下シ賜ハリ、昨年二月十一日ニ、萬世不磨ノ大典タル、帝國憲法ヲ發布セラレタル、其大御功績ヲ、目出度ク

實行アラセラレタル日デアリマセウ。苟モ我大日本帝國ノ臣民ニシテ、誰カ、此佳辰ニ際シ、聖恩ノ深厚ナルヲ感謝シ、國運ノ隆昌ヲ賀セザルモノガアリマセウゾ。特ニ昭代ノ美術タル音樂ヲ以テ、國家ニ盡サントスルモノニ在リテハ、一層感謝ノ情ニ堪ヘヌコトデアリマス。抑音樂ハ、生民ト其成立ヲ共ニシ、國トシテ此術アラザルハ無く、民トシテ此道ヲ傳ヘザルモノ無シト雖トモ、世ノ盛衰ト、其興廢ノ跡ヲ同スルモノデアリマス。我國ニ於テハ、神代ニ在リテ、天照大神ガ、天岩嶺ニ幽居ラヒ賜ヒシ時、八百萬神等愁ヒ迷ヒ賜ヒ、種々ノ業ヲナシ、「天鈿女命則手持茅纏之稍、立於天石窟戸之前、巧作俳優、亦以天香山之眞坂樹爲蔓、以蘿爲手、襍云々」トアルヲ以テ、正史ニ見エタル始トシ、其後、高麗百濟ノ樂、隋唐ノ樂、天竺ノ樂ナド入り來リテ、大ニ我音樂ノ進歩ヲ助ケ、治道ニ裨補セシガ、今ヨリ數百年前ニ至リテ、一種不完全ナル樂律ガ、當時ノ所謂南蠻、即チ葡萄牙ヨリ傳ハリ來リ、俗曲ト變性シテ、大ニ世上ニ蔓延シ、我樂律ヲ亂シ、我風俗ヲ壞リタルコト、實ニ少カラザルコトデアリマス。然ルニ明治ノ昭代ニ至リ、純正ナル樂律ニ依テ、學校唱歌ヲ編制シ、普ク全國ノ學校ニ行ハセラレ、今ヤ都鄙到ル處、其聲ヲ聞カザルハナク、漸ク將ニ風ヲ易ヘ、俗ヲ移スノ實功ヲ見ントスルニ至リマシタ。

凡ソ我臣民トシテ、忠君愛國ノ心情ヲ有セヌモノハ、一人モアリマスマイ。内ニ此忠愛ノ心ヲ養ヒ、外ニ此忠愛ノ情ヲ發スルニ適セルハ、唱歌ノ外ニ何物ガアリマセウ。唱歌ハ、深ク人心ノ底ニ徹シ、遠ク九天ノ上ニ達スルモノデアリマス。吾等ハ、明治ノ昭代ニ生レ、今日瑞雲飄颻、和氣雍々ノ中ニ在テ、我四千萬ノ同胞ト共

ニ、帝國議會ノ開院ヲ祝スルノ好運ニ會シタルヲ慶賀シマス。我等ハ今日全國到ル處、各府縣ノ學校生徒ト共ニ、同聲同律ノ歌頌ヲ以テ、此千古未曾有ノ盛典ヲ祝スルノ榮譽ヲ得タルヲ喜ビマス。猶今日以往、貴族衆議、兩院ニ雲集セル俊傑ノ士ノ贊助ト、賢明ナル政府ノ庇護トニ依リ、此昭代ノ美術、治國ノ要具タル音樂ノ、愈々益々隆盛ニ至ランコトヲ偏ニ祈ルコトデアリマス。茲ニ謹テ君カ代ノ歌ヲ唱シ、天皇陛下ノ萬歲ヲ祝シ奉リマセウ。來賓諸君ニモ御起立ノ上、和唱アランコトヲ望ミマス。

君ガ代 合唱二回

是ヨリ帝國議會ノ長久隆昌ヲ祈リ、開院ノ歌頌ヲ謳歌致シマス。

帝國議會開院之兒歌 三回

東京府下小學校生徒之ヲ合唱ス。

帝國議會開院之頌第二 三回

高等商業學校生徒之ヲ合唱ス。

帝國議會開院之頌第一 三回

東京校音樂學生徒之ヲ合唱シ、宮内省式部職歐洲管絃樂隊之ニ伴奏ス。

〔『國家教育』第三号、明治二十三年十二月十二日〕

なおこの日歌われた「帝國議會開院之頌」と「帝國議會開院之兒歌」ができたが、ついでにきさつは次の記事に示されている。「伊澤修二君の首唱に係る礪川表町國家教育社にては帝國議會開院の頌となる歌詞を普く世上に募集し秀逸の作には有名なる音樂家と謀り樂譜を附して開院の當日全國の學校生徒に唱はしめんと其計畫を爲し居らるゝといふ」〔『音樂雜誌』第二号、明治二十三年十月、二十七頁〕。その歌詞を次に挙げる。

帝國議會開院之頌

(第一) 上眞行氏作曲○ヂトリヒ氏調和○中村秋香氏作歌

四千餘萬の同胞よ、擧りて祝へいざ祝へ、天津日嗣國の憲法、我

日の本は天津日の、照さん限り富士か根の、動かぬ基いやがたし

朝日に匂ふ山櫻、日本男兒が言論て、寶祚の隆國家の福、萬世永

く守るべき、帝國議會開けたり、祝へや祝へや國民よ

(第二) 芝 葛鎮氏作曲○加部嚴夫氏作歌

動かぬものは高御座、動きて進むは人ごゝろ、動かぬ帝位進むは

御代、すぐれし人の集ふなる、帝國議會ひらけたり、帝國議會開け

たり

帝國議會開けたり、萬世經とも動かじな、動くは人堅固きは憲

法、みのりの儘に従がひて、皇國の爲にやよ盡せ、みくのために

やよつくせ

皇國の爲にやよ盡せ、わがせと恃む代議士よ、天皇には忠、臣民

には信、忠と信とを守りてぞ、言辭の花も實を結ぶ、ことばの花も

みをむすぶ

帝國議會開院之兒歌

伊澤修二君校閱○小山作之助氏作曲○雪の舍主人作歌

祝へや祝へ皆共に、たぐいもあらぬ此御世を、古へにも今にもな

き、めでたき法は世に布きぬ、祝へや祝へ此御代を、いはへやいは

へこの御代を

歌へやうたへ皆共に、かぎりも知らぬこの國を、萬代まで匂はん

花、色香も深く今さきぬ、歌へや歌へこの國を、歌へやうたへ此く

にを

仰げやあふげ皆共に、はつ國しらす我君を、くぬがのはて海外ま
で、恵みの露は世にみちぬ、仰げやく我君を、仰げやあふげ我君
を

『音楽雑誌』第三号、明治二十三年十一月